

オフィスまるごとサポートデバイスマネジメント  
管理サイト ユーザーマニュアル  
Windows

最終更新日 2018年7月18日

株式会社オプティム  
(c)東日本電信電話株式会社

<b>1</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>3</b>
<b>2</b>	<b>Windows</b> .....	<b>4</b>
2.1	設定テンプレート.....	5
2.1.1	設定テンプレート画面を表示する.....	5
2.1.2	デフォルトの設定テンプレートを指定する.....	6
2.1.3	(所属組織に従う)をデフォルトに設定にする.....	6
2.1.4	設定テンプレートの入力値.....	6
2.2	エージェント共通管理.....	7
2.2.1	エージェント共通管理画面を表示する.....	7
2.2.2	エージェント共通管理を編集する.....	8
2.2.3	エージェント共通管理の入力値.....	9
2.3	エージェント個別管理.....	11
2.3.1	エージェント個別管理画面を表示する.....	11
2.3.2	エージェント個別管理の設定セット入力値.....	12
2.4	システム設定・診断.....	13
2.4.1	システム設定・診断画面を表示する.....	13
2.4.2	システム設定・診断の設定セット入力値.....	14
2.5	システムセキュリティ.....	15
2.5.1	システムセキュリティ画面を表示する.....	15
2.5.2	システムセキュリティの設定セット入力値.....	17
2.6	MS Office ライセンス管理.....	21
2.6.1	MS Office ライセンス管理画面を表示する.....	21
2.6.2	MS Office ライセンス管理画面の並び替えを行う.....	23
2.6.3	MS Office ライセンス一覧をダウンロードする.....	23
2.6.4	MS Office ライセンス一覧を編集する.....	23
2.6.5	MS Office ライセンス管理タブの入力値.....	23
2.7	位置情報管理.....	24
2.7.1	位置情報管理画面を表示する.....	24
2.7.2	位置情報管理の設定セット入力値.....	25
<b>3</b>	<b>Windows - 使用制限</b> .....	<b>26</b>
3.1	アプリケーション禁止.....	27
3.1.1	アプリケーション禁止画面を表示する.....	27
3.1.2	アプリケーション禁止の設定セット入力値.....	30
3.2	外部デバイス.....	31
3.2.1	外部デバイス画面を表示する.....	32
3.2.2	外部デバイスの設定セット入力値.....	34
3.3	CD/DVD/ブルーレイ.....	35
3.3.1	CD/DVD/ブルーレイ画面を表示する.....	35
3.3.2	CD/DVD/ブルーレイの設定セット入力値.....	36
3.4	Wi-Fi フィルタリング.....	37
3.4.1	Wi-Fi フィルタリング画面を表示する.....	37
3.4.2	Wi-Fi フィルタリングの設定セット入力値.....	38
3.5	スクリーンロック.....	39
3.5.1	スクリーンロック画面を表示する.....	40
3.5.2	スクリーンロックの設定セット入力値.....	42
<b>4</b>	<b>Windows - セットアップ</b> .....	<b>44</b>
4.1	暗号化.....	45
4.1.1	暗号化画面を表示する.....	45
4.1.2	暗号化の設定セット入力値.....	46
4.2	プロキシ.....	47
4.2.1	プロキシ画面を表示する.....	47
4.2.2	プロキシの設定セット入力値.....	48
4.3	アプリケーション配信.....	49
4.3.1	アプリケーション配信画面を表示する.....	49
4.3.2	アプリケーション配信の設定セット入力値.....	50
4.4	Wi-Fi.....	51
4.4.1	Wi-Fi 画面を表示する.....	51
4.4.2	Wi-Fi の設定セット入力値.....	52

# 1 はじめに

本マニュアルは、管理サイトのメニュータブで Windows 機器に対して独自に提供している機能のマニュアルです。Windows 機器に対して独自に提供している機能は以下のとおりです。

## 2 Windows

Windows 機器に対する設定および、設定セットの作成を行います。「エージェント共通管理」以外に関しては、設定セットの作成後、機器一括設定および、機器ごとの設定にて適用してください。作成可能な設定セットは以下のとおりです。

※システムによりグループポリシーが設定されてる場合は、グループポリシーが優先され、正しく設定が行われない場合があります。

グループポリシーについては、御社のシステム管理者にご相談ください。

設定項目名	ページ
<a href="#">設定テンプレート</a>	<a href="#">5</a>
<a href="#">エージェント共通管理</a>	<a href="#">7</a>
<a href="#">エージェント個別管理</a>	<a href="#">11</a>
<a href="#">システム設定・診断</a>	<a href="#">13</a>
<a href="#">システムセキュリティ</a>	<a href="#">15</a>
<a href="#">MS Office ライセンス管理</a>	<a href="#">21</a>
<a href="#">位置情報管理</a>	<a href="#">24</a>

## 2.1 設定テンプレート

設定テンプレートは複数の設定セットを1つにまとめたものです。設定テンプレートを適用すると含まれるすべての設定セットが適用されるため、機能ごとに設定セットを指定する必要はありません。頻繁に利用する設定セットを設定テンプレートとしてまとめておくことで、操作負荷を軽減させることができます。作成した設定テンプレートは、組織ごとまたは機器ごとの設定にて適用してください。

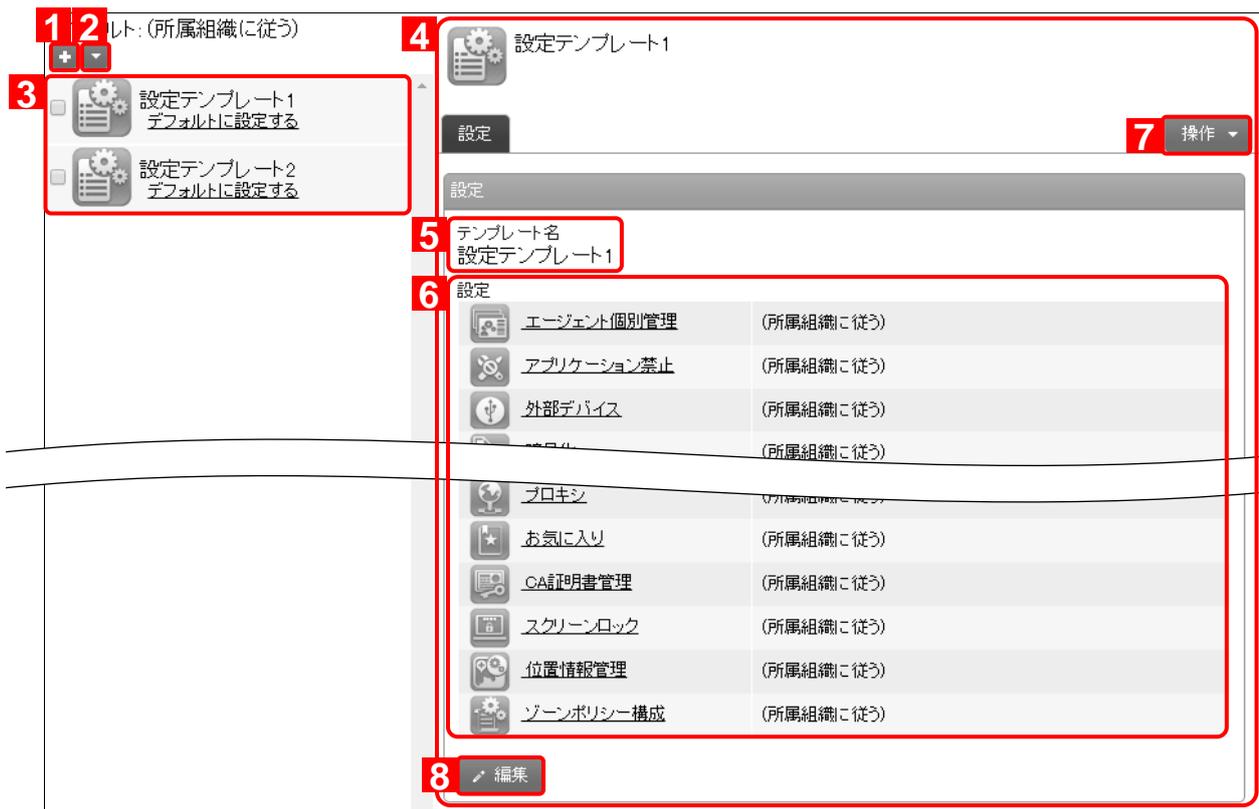
※設定テンプレートを一括して複数の機器に適用することはできません。

※設定が機器に反映されるまでの時間は、サーバーや機器の通信状態に依存します。

### 2.1.1 設定テンプレート画面を表示する

設定テンプレート画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [設定テンプレート]をクリックします。



項番	対象	説明
1	[新規作成]	クリックすると新規作成画面が表示されます。 ・新規作成：設定テンプレートを新規で作成します。
2	[その他の操作]	クリックすると以下のメニューが表示されます。 ・全てにチェックを入れる：全ての設定テンプレートのチェックボックスにチェックが入ります。 ・全てのチェックをはずす：全ての設定テンプレートのチェックボックスからチェックをはずします。 ・一括削除：チェックの入った設定テンプレートを削除します。
3	設定テンプレート一覧	登録されている設定テンプレート一覧が表示されます。
4	設定テンプレート情報	選択した機能により画面が切り替わります。設定テンプレート一覧より選択した設定テンプレート情報が表示されます。
5	テンプレート名	設定テンプレートの名称を指定します。
6	設定	設定テンプレートに含める設定セットを作成済みの設定セットより指定します。
7	[操作]	クリックすると以下のメニューが表示されます。 ・複製：設定テンプレートを複製します。 ・削除：設定テンプレートを削除します。 ※管理者権限の場合は、サービス企業が作成した設定テンプレートでも[操作]タブが表示されます。
8	[編集]	登録されている設定テンプレート情報を編集することができます。

※新規作成、編集、削除方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—設定セット作成方法」を参照してください。

## 2.1.2 デフォルトの設定テンプレートを指定する

Windows のデフォルトの設定テンプレートの指定手順は Android 環境での指定手順と同一です。

詳細は、「管理サイト ユーザーマニュアル Android」の「Android—設定テンプレート—デフォルトの設定テンプレートを指定する」を参照してください。

## 2.1.3 (所属組織に従う)をデフォルトに設定にする

Windows の(所属組織に従う)をデフォルトに設定する手順は Android 環境での指定手順と同一です。詳細は、「管理サイト ユーザーマニュアル Android」の「Android—設定テンプレート—(所属組織に従う)をデフォルトに設定にする」を参照してください。

## 2.1.4 設定テンプレートの入力値

設定テンプレートでは以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【テンプレート名】	設定テンプレートの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。
【設定】	設定テンプレートに含める設定セットを指定します。なお、含めた設定セットに対する編集および削除は、設定テンプレートにも自動的に反映されます。

## 2.2 エージェント共通管理

機器にインストールされている、全ての Windows エージェントに対して共通するルール設定を行うことができます。設定を保存した時点で、すべての Windows 機器に対して適用されます。

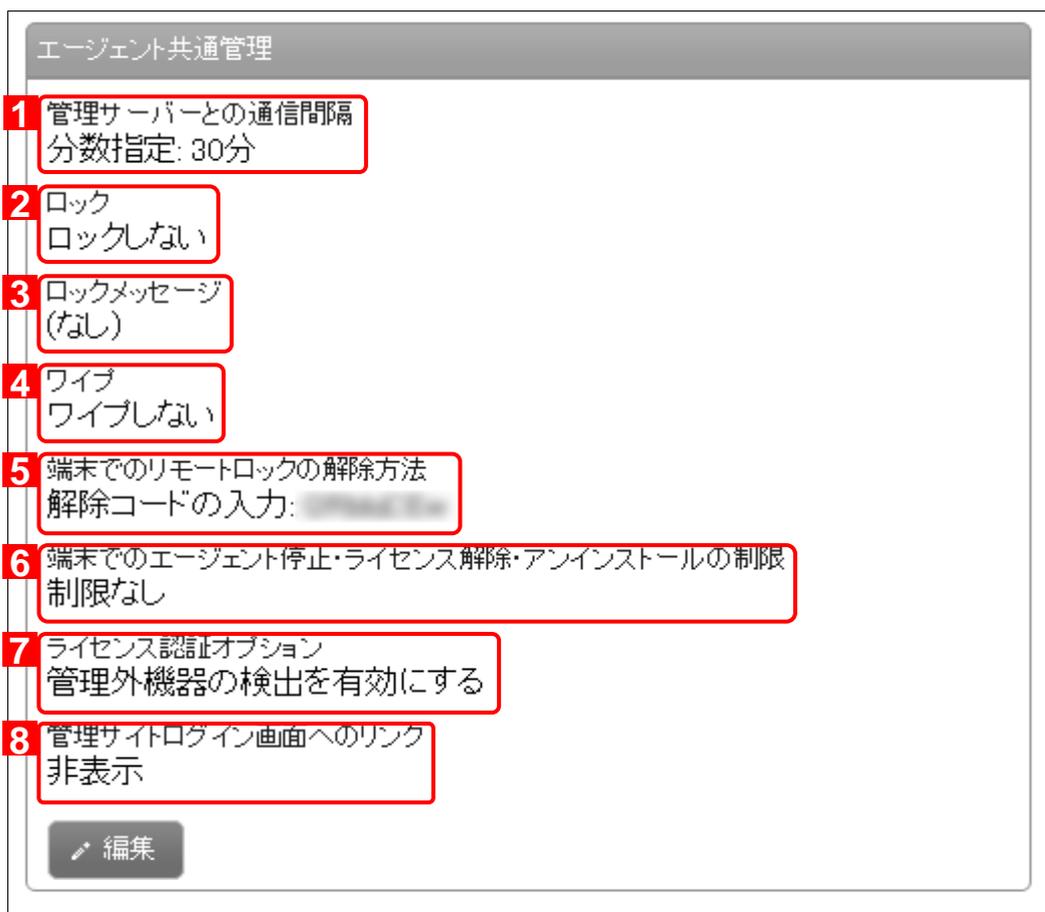
※設定が機器に反映されるまでの時間は、サーバーや機器の通信状態に依存します。

※「管理サーバーと通信できなかった場合」で「ワイプ」を選択した場合、管理サーバーや端末の状況に関わらず、通信できなかった場合に端末はワイプされます。設定保存前に、内容を再度ご確認ください。

### 2.2.1 エージェント共通管理画面を表示する

エージェント共通管理画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [エージェント共通管理]をクリックします。



項番	対象	説明
1	管理サーバーとの通信間隔	指定分数、指定時間、指定日数を入力し、設定することができます。初期設定では 30 分に設定されています。
2	ロック	Windows 機器を紛失し管理サーバーと通信ができなくなった場合のため、入力した指定分数、指定時間、指定日数後、Windows 機器をロックすることができます。初期設定では「ロックしない」に設定されています。
3	ロックメッセージ	ロック中の Windows 機器の画面にお好きなメッセージを表示させることができます。(最大文字数は 200 文字です) 初期設定ではメッセージは登録されていません。 ※メッセージ表示時、入力されたメッセージの前後にある空白は削除されます。 ※ロックメッセージが無記入の場合は、管理サイト上では「(なし)」と表示されますが、端末には「(なし)」は表示されません。
4	ワイプ	Windows 機器を紛失し管理サーバーと通信ができなくなった場合のため、入力した指定分数、指定時間、指定日数後、Windows 機器をワイプすることができます。初期設定では「ワイプしない」に設定されています。ワイプを選択した場合、「ワイプの方法」で「BitLocker」と「データ削除」のいずれかを選択します。「BitLocker」と「データ削除」については、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—機器—リモート操作—リモートワイプを行う(Windows 機器)」を参照してください。 ※通信間隔の設定によってはワイプまでに時間がかかることがあります。
5	端末でのリモートロックの解除方法	リモートロックの解除方法を設定することができます。 ・なし：リモートロックの解除は管理サイトからのみ行うことができます。 ・解除コードの入力：Windows 機器に解除コードを入力することでリモートロックを解除することができます。初期設定ではランダムな 8 文字のパスワードが設定されています。
6	端末でのエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールの制限	Windows 機器でライセンスを解除する場合や、エージェントをアンインストールする場合に、パスワードを要するか設定することができます。 ・制限なし：パスワードを入力せずにライセンス解除やアンインストールすることができます。 ・パスワードの入力：ライセンス解除やアンインストールする際にパスワードの入力が必要となります。
7	ライセンス認証オプション	※本機能は、管理サイトのユーザーが変更することはできないため、非表示になっています。変更したい場合は、サービス企業の管理者へお問い合わせください。  ライセンス認証時に、管理外機器の検出を有効にするかどうかを選択します。初期値は「管理外機器の検出を有効にする(次回ライセンス認証時のみ)」が設定されており、ライセンス認証が一度終わると「なし」へ設定が変更されます。 ・管理外機器の検出を有効にする：ライセンス認証の度に管理外機器の検出を有効にしたい場合、選択します。ライセンス認証後も「なし」へ変更されることはありません。 ・管理外機器の検出を有効にする(次回ライセンス認証時のみ)：初期値で選択されています。本設定後、ライセンス認証が一度終わると、設定は自動的に「なし」へ変更されます。常に管理外機器の検出を有効にしたい場合は、「管理外機器の検出を有効にする」を選択します。 ・なし：管理外機器の検出をしない場合に選択します。
8	管理サイトログイン画面へのリンク	エージェントに管理サイトログイン画面へのリンクを表示するかどうかを設定することができます。 ・表示：エージェントに管理サイトログイン画面へのリンクを表示します。 ・非表示：エージェントに管理サイトログイン画面へのリンクを表示しません。

## 2.2.2 エージェント共通管理を編集する

エージェント共通管理を編集します。入力項目に関しては、「エージェント共通管理の入力値」9 ページを参照してください。

1. エージェント共通管理画面を表示します。
2. [編集]をクリックします。
3. 必要事項を入力して、[保存]をクリックします。

## 2.2.3 エージェント共通管理の入力値

エージェント共通管理では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【管理サーバーとの通信間隔】	<p>機器が管理サーバーと定期的に同期する間隔を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分数指定：指定した分数間隔で同期を行います。分数を合わせて指定します。分数指定を選択時は入力必須です。半角数字のみ入力できます。10 以上 59 以下で入力して下さい。</li> <li>・時間指定：指定した時間間隔で同期を行います。時間を合わせて指定します。時間指定を選択時は入力必須です。半角数字のみ入力できます。1 以上 23 以下で入力して下さい。</li> <li>・日数指定：指定した日数間隔で同期を行います。日数を合わせて指定します。日数指定を選択時は入力必須です。半角数字のみ入力できます。1 以上 365 以下で入力して下さい。</li> </ul>
【管理サーバーと通信できなかった場合】 【ロック】	<p>管理サーバーと機器が同期できなかった場合に機器にリモートロックを行うことが可能です。リモートロックを行うまでの猶予時間を指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロックしない：リモートロックを行いません。</li> <li>・指定分数後にロック：指定分数経過後に機器をリモートロックします。分数を合わせて指定します。分数指定を選択時は入力必須です。半角数字のみ入力できます。10 以上 59 以下で入力してください。</li> <li>・指定時間後にロック：指定時間経過後に機器をリモートロックします。時間を合わせて指定します。時間指定を選択時は入力必須です。半角数字のみ入力できます。1 以上 23 以下で入力してください。</li> <li>・指定日数後にロック：指定日数経過後に機器をリモートロックします。日数を合わせて指定します。日数指定を選択時は入力必須です。半角数字のみ入力できます。1 以上 365 以下で入力してください。</li> </ul>
【ロックメッセージ】	<p>リモートロックした機器の画面にメッセージを表示することができます。表示するメッセージを入力してください。200 文字以内で入力してください。制御文字の入力はできません。 ※空白類(タブ、改行等)は入力できません</p>
【ワイプ】	<p>管理サーバーと機器が同期できなかった場合に機器にリモートワイプを行うことが可能です。リモートワイプを行うまでの猶予時間を指定してください。 ※通信間隔の設定によってはワイプまでに時間がかかることがあります。 ※管理サーバーや端末の状況に関わらず、通信できなかった場合に端末はワイプされます。設定保存前に、内容を再度ご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイプしない：リモートワイプを行いません。</li> <li>・指定分数後にワイプ：指定分数経過後に機器をリモートワイプします。分数を合わせて指定します。分数指定を選択時は入力必須です。半角数字のみ入力できます。10 以上 59 以下で入力してください。</li> <li>・指定時間後にワイプ：指定時間経過後に機器をリモートワイプします。時間を合わせて指定します。時間指定を選択時は入力必須です。半角数字のみ入力できます。1 以上 23 以下で入力してください。</li> <li>・指定日数後にワイプ：指定日数経過後に機器をリモートワイプします。日数を合わせて指定します。日数指定を選択時は入力必須です。半角数字のみ入力できます。1 以上 365 以下で入力してください。</li> </ul>
【ワイプの方法】	<p>【ワイプ】で、「指定分数後にワイプ」、「指定時間後にワイプ」、「指定時間後にワイプ」のいずれかを選択した場合は、ワイプの方法を以下より選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ BitLocker</li> <li>・ データ削除</li> </ul>
【端末でのリモートロックの解除方法】	<p>機器側でのリモートロック解除方法を指定してください。管理サイトでリモートロック解除操作を行ったのちに、機器と管理サーバーが同期を行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし：解除コードを指定しません。</li> <li>・解除コードの入力：解除コードを指定します。機器側で解除コードを入力することで、リモートロックを解除できます。解除コードの入力を選択時は入力必須です。4 文字以上 20 文字以内で入力してください。半角英数字のみ入力できます。</li> </ul>
【端末でのエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールの制限】	<p>機器側でエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールを行う際の制限を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制限なし：制限を設けません。</li> <li>・解除コードの入力：パスワードを指定します。機器側でエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールを行う際、パスワードが要求されます。解除コードの入力を選択時は入力必須です。4 文字以上 20 文字以内で入力してください。半角英数字のみ入力できます。</li> </ul>

項目名	ルール
【ライセンス認証オプション】	<p>※本機能は、管理サイトのユーザーが変更することはできないため、非表示になっています。変更したい場合は、サービス企業の管理者へお問い合わせください。</p> <p>ライセンス認証を行う Windows 機器に対して管理外機器の検出機能を有効にするかどうかを指定します。ただし、既にライセンス認証されている機器には適用されません。設定完了後にライセンス認証される機器のみに適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理外機器の検出を有効にする：ライセンス認証を行うすべての機器にたいして検出機能を有効にします。</li> <li>・管理外機器の検出を有効にする(次回ライセンス認証時のみ)：本設定後、最初に認証する機器のみ検出機能を有効にします。</li> <li>・なし：検出機能を有効にしません。</li> </ul>
【管理サイトログイン画面へのリンク】	<p>以下より選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表示：Windows エージェントのタスクトレイアイコンメニューに「管理サイトログイン画面」へのリンクメニューを表示する。</li> <li>・非表示：Windows エージェントのタスクトレイアイコンメニューに「管理サイトログイン画面」へのリンクメニューを表示しない。</li> </ul>

## 2.3 エージェント個別管理

Windows エージェントに対する管理外機器の検出機能に関する設定セットを作成します。当設定セットを用いることで、検出機能の利用可否を指定することが可能です。作成した設定セットは一括機器設定および、機器ごとの設定にて適用してください。

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器―一括機器設定―一括して複数の機器に設定セットを適用する」

※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作―機器―設定―単一の機器に設定テンプレートを適用する」

### 2.3.1 エージェント個別管理画面を表示する

エージェント個別管理画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [エージェント個別管理]をクリックします。



項番	対象	説明
1	[新規作成]	クリックすると設定入力欄が表示されます。
2	[その他の操作]	クリックすると以下のメニューが表示されます。 ・全てにチェックを入れる：全ての設定セットのチェックボックスにチェックが入ります。 ・全てのチェックをはずす：全ての設定セットのチェックボックスからチェックをはずします。 ・一括削除：チェックの入った設定セットを削除します。
3	エージェント個別管理設定一覧	登録されているエージェント個別管理設定一覧が表示されます。
4	エージェント個別管理設定情報	エージェント個別管理設定一覧より選択したエージェント個別管理設定情報が表示されます。
5	設定名	お好きな名前を入力します。
6	管理外機器の検出	機器にインストールされている Windows エージェントに対して、エージェントが入っていない管理外機器の検出有無の設定をします。 ・有効：管理外機器の検出を有効にします。 ・無効：管理外機器の検出を無効にします。
7	[操作]	クリックすると以下のメニューが表示されます。 ・複製：設定セットを複製します。 ・削除：設定セットを削除します。
8	[編集]	登録されているエージェント個別管理設定情報を編集することができます。

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作－設定セット作成方法」を参照してください。

## 2.3.2 エージェント個別管理の設定セット入力値

エージェント個別管理では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。
【管理外機器の検出】	管理外機器の検出の利用可否を指定します。 ・有効：管理外機器の検出を利用します。 ・無効：管理外機器の検出を利用しません。

## 2.4 システム設定・診断

Windows のシステムまわりに対して設定および診断を行います。問題がある場合はログ(「管理サイト ユーザーマニュアル 各種設定」の「管理ログ」を参照)に出力します。作成した設定セットは一括機器設定および、機器ごとの設定にて適用してください。

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器一括機器設定」一括して複数の機器に設定セットを適用する」

※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作」機器設定」単一の機器に設定テンプレートを適用する」

### 2.4.1 システム設定・診断画面を表示する

システム設定・診断画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [システム設定・診断]をクリックします。

1 設定名

2 システム設定・診断

項目	設定	診断
ドライブ空き容量診断	-	<input type="checkbox"/> 診断
デフラグを自動実行する	<input type="checkbox"/> 設定	-
システムドライブの復元を有効化する	<input type="checkbox"/> 設定	-
CPU温度診断	-	<input type="checkbox"/> 診断
ハードディスク異常診断	-	<input type="checkbox"/> 診断
Internet Explorerの新しいバージョンを自動的にインストールしない	<input type="checkbox"/> 設定	-

※システムによりグループポリシーが設定されている場合、グループポリシーが優先されるため、設定が正しく行われぬ場合があります。  
※グループポリシーについては、御社のシステム管理者にご相談ください。

✓ 保存

項番	対象	説明
1	設定名	お好きな名前を入力します。
2	システム設定・診断	項目ごとに設定／診断を指定します。設定のみ可能な項目と、診断のみ可能な項目が存在します。

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作－設定セット作成方法」を参照してください。

## 2.4.2 システム設定・診断の設定セット入力値

システム設定・診断の設定では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。
【システム設定・診断】	実行を指示する設定および診断を指定します。

システム設定・診断の項目については以下の通りです。

項目	設定／診断	説明
ドライブ空き容量診断	設定	・設定は指定できません。
	診断	・オンにするとドライブ空き容量の状態を診断します。 ・オフにすると何も行いません。
デフラグを自動実行する	設定	・オンにするとデフラグの自動実行を有効にします。 ・既に有効な場合は何も行いません。 ・Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。 ・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。
	診断	・診断は指定できません。
システムドライブの復元を有効化する	設定	・オンにするとシステムドライブの復元を有効にします。 ・既に有効な場合は何も行いません。 ・Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。 ・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。
	診断	・診断は指定できません。
CPU 温度診断	設定	・設定は指定できません。
	診断	・オンにすると CPU 温度を診断します。 ・オフにすると何も行いません。
ハードディスク異常診断	設定	・設定は指定できません。
	診断	・オンにするとハードディスク異常を診断します。 ・オフにすると何も行いません。
Internet Explorer の新しいバージョンを自動的にインストールしない	設定	・オンにすると Internet Explorer の新しいバージョンの自動インストールが無効になります。
	診断	・診断は指定できません。

※Windows Server は、Internet Explorer の自動更新抑止に対応していません。

## 2.5 システムセキュリティ

---

Windows のセキュリティまわりに対して設定および診断を行います。問題がある場合はログ(「管理サイト ユーザーマニュアル 各種設定」の「管理ログ」を参照)に出力します。作成した設定セットは一括機器設定および、機器ごとの設定にて適用してください。

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器一括機器設定一括して複数の機器に設定セットを適用する」

※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作機器設定単一の機器に設定テンプレートを適用する」

### 2.5.1 システムセキュリティ画面を表示する

---

システムセキュリティ画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [システムセキュリティ]をクリックします。

新規作成

設定

設定 - 編集

**1** 設定名

**2** システムセキュリティ

項目	設定	診断
ファイアウォールが無効な場合、Windowsファイアウォールを有効化する	<input type="checkbox"/> 設定	<input type="checkbox"/> 診断
WindowsのGuestアカウントを無効化する	<input type="checkbox"/> 設定	<input type="checkbox"/> 診断
Windowsの更新を自動インストールする(※6)	<input type="checkbox"/> 設定	<input type="checkbox"/> 診断
Windowsの更新時に他のMicrosoft製品の更新プログラムを入手する	<input type="checkbox"/> 設定	<input type="checkbox"/> 診断
スクリーンセーバーの解除時によこそ画面に戻る	<input type="checkbox"/> 設定	<input type="checkbox"/> 診断
ウイルス対策ソフト	-	<input type="checkbox"/> 診断
スパイウェア対策ソフト	-	<input type="checkbox"/> 診断

Office

項目	設定
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する:Excel	<input type="checkbox"/> 設定
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する:Word	<input type="checkbox"/> 設定
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する:PowerPoint	<input type="checkbox"/> 設定
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する:Outlook	<input type="checkbox"/> 設定

ブラウザ

項目	設定
SSL3.0以下を無効、TLS1.0以上を有効にする	<input type="checkbox"/> 設定
拡張保護モードを有効にする(※1)	<input type="checkbox"/> 設定

**3** 信頼済みサイト一覧

URL	+
(+ボタンで追加: 300件まで)	<input type="button" value="+"/>

**4** 制限付きサイト一覧

URL	+
(+ボタンで追加: 300件まで)	<input type="button" value="+"/>

※1 Windows 7(x64) Internet Explorer 10/Internet Explorer 11、Windows 8以降のみ対応。  
 ※2 Windows 8.1(x64)、Windows 10(x64)以降のみ対応。  
 ※3 Internet Explorer 7では、フィッシング詐欺検出機能を有効にします。  
 ※4 「署名が無効な場合でもソフトウェアの実行またはインストールを許可する」のチェックが外れます。  
 ※5 Internet Explorer 10以降のみ対応。  
 ※6 Windows 10は非対応。  
 ※7 Internet Explorer 9以降のみ対応。  
 ※8 「インターネット」ゾーンに対する設定をおこないます。

※システムによりグループポリシーが設定されている場合、グループポリシーが優先されるため、設定が正しく行われない場合があります。  
 ※グループポリシーについては、御社のシステム管理者にご相談ください。

項番	対象	説明
1	設定名	好きな名前を入力します。
2	システムセキュリティ /Office/ブラウザー	項目ごとに設定／診断を指定します。設定と診断が可能な項目と、設定のみ可能な項目が存在します。 ※「Office」の設定対象バージョンは、Office 2007/2010/2013/2016 です。 ※「Internet Explorer」の設定対象バージョンは、Internet Explorer 9/10/11 です。
3	信頼済みサイト一覧	Internet Explorer の「信頼済みサイト」の登録を行います。
4	制限付きサイト一覧	Internet Explorer の「制限付きサイト」の登録を行います。

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作－設定セット作成方法」を参照してください。

## 2.5.2 システムセキュリティの設定セット入力値

システムセキュリティの設定では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。
【システムセキュリティ】	実行を指示する設定および診断を指定します。
【Office】	実行を指示する設定を指定します。
【ブラウザー】	実行を指示する設定を指定します。
【信頼済みサイト一覧】	登録したい URL を指定します。300 件まで追加できます。
【制限付きサイト一覧】	登録したい URL を指定します。300 件まで追加できます。

診断、設定項目の詳細については以下の通りです。

### 【システムセキュリティ】

項目	設定／診断	説明
ファイアウォールが無効な場合、 Windows ファイアウォールを有効化する	設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると Windows ファイアウォールを有効にします。</li> <li>・既に有効な場合は何も行いません。</li> <li>・Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
	診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると Windows ファイアウォールの状態を診断します。</li> <li>・オフにすると何も行いません。</li> </ul>
Windows の Guest アカウントを無効化する	設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると Windows の Guest アカウントを無効にします。</li> <li>・既に無効な場合は何も行いません。</li> <li>・Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
	診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると Windows の Guest アカウントの状態を診断します。</li> <li>・オフにすると何も行いません。</li> </ul>
Windows の更新を 自動インストールする ※Windows10 非対応	設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると Windows の自動更新を有効にします。</li> <li>・既に有効な場合は何も行いません。</li> <li>・Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
	診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると Windows の自動更新の状態を診断します。</li> <li>・オフにすると何も行いません。</li> </ul>
Windows の更新時に他の Microsoft 製品の 更新プログラムを入手する	設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると Windows の更新時に他の Microsoft 製品の更新プログラムをダウンロードします。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
	診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると他の Microsoft 製品の更新プログラムの入手状態を診断します。</li> <li>・オフにすると何も行いません。</li> </ul>

項目	設定／診断	説明
スクリーンセーバーの解除時に ようこそ画面に戻る	設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとスクリーンセーバー解除時によろこそ画面を表示する設定に変更します。</li> <li>・既に表示する設定になっている場合は何も行いません。</li> <li>・Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
	診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとスクリーンセーバー解除時の状態を診断します。</li> <li>・オフにすると何も行いません。</li> </ul>
ウイルス対策ソフト	設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定は指定できません。</li> </ul>
	診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとウイルス対策ソフトの状態を診断します。</li> <li>・オフにすると何も行いません。</li> </ul>
スパイウェア対策ソフト	設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定は指定できません。</li> </ul>
	診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとスパイウェア対策ソフトの状態を診断します。</li> <li>・オフにすると何も行いません。</li> </ul>

【Office】

項目	説明
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する：Excel	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとコンピューターに影響を与える可能性のある Excel 内のマクロの実行を制限します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する：Word	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとコンピューターに影響を与える可能性のある Word 内のマクロの実行を制限します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する：PowerPoint	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとコンピューターに影響を与える可能性のある PowerPoint 内のマクロの実行を制限します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する：Outlook	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとコンピューターに影響を与える可能性のある Outlook 内のマクロの実行を制限します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>

【ブラウザ】

項目	説明
SSL3.0 以下を無効、TLS1.0 以上を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると SSL3.0 以前の SSL を停止し、TLS1.0 以降が有効になります。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
拡張保護モードを有効にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると拡張保護モードが有効になります。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul> ※Windows7(x64) Internet Explorer 10/Internet Explorer 11、Windows8 以降のみ対応
拡張保護モードで 64 ビットプロセッサを有効にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると拡張保護モードで 64 ビットプロセッサを有効になります。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul> ※ Windows 8.1(x64)、Windows10(x64)以降のみ対応
SmartScreen フィルター機能を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると SmartScreen フィルター機能が有効になります。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
POST の送信が POST を許可しないゾーンにリダイレクトされた場合に警告する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると POST の送信が POST を許可しないゾーンにリダイレクトされた場合に警告します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
サーバーの証明書失効を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとサーバーの証明書失効時に確認を行います。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
署名が有効な場合のみソフトウェアの実行またはインストールを許可する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとソフトウェアの実行またはインストールが許可されるのは署名が有効な場合のみになります。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul> ※「署名が無効な場合でもソフトウェアの実行またはインストールを許可する」のチェックが外れます。
証明書のアドレスの不一致について警告する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると証明書のアドレスの不一致について警告します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
発行元証明書の取り消しを確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると発行元証明書の取り消しを確認します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>

項目	説明
厳密な P3P 検証を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると厳密な P3P (Platform for Privacy Preferences 標準) 検証が有効になります。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul> ※ Internet Explorer 10 以降のみ対応 ※ Windows 10 は非対応
他の混在したコンテンツを持つセキュリティで保護されていないイメージをブロックする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると他の混在したコンテンツを持つセキュリティで保護されていないイメージがブロックされます。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul> ※ Internet Explorer 9 以降のみ対応
保護つき/保護なしのサイト間を移動する場合に警告する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると保護つき/保護なしのサイト間を移動する場合に警告します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
安全だとマークされてない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行を無効にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると安全だとマークされてない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行を無効にします。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
署名された ActiveX コントロールのダウンロードをする場合にダイアログを表示する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると署名された ActiveX コントロールのダウンロードをする場合にダイアログを表示します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
署名されていない ActiveX コントロールのダウンロードを無効にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると署名されていない ActiveX コントロールのダウンロードを無効にします。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
アクティブスクリプトを無効にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとアクティブスクリプトを無効にします。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
IFRAME 内からプログラムやファイルを起動する前にダイアログを表示する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると IFRAME 内からプログラムやファイルを起動する前にダイアログを表示します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
Web ブラウザー コントロール内でスクリプトの実行を禁止する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると Web ブラウザー コントロール内でスクリプトの実行を禁止します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
ポップアップブロック機能を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとポップアップブロック機能が有効になります。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
既存のクライアント証明書が 1 つしか存在しない場合の証明書の選択を無効にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると既存のクライアント証明書が 1 つしか存在しない場合の証明書の選択が無効になります。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
SSL/TLS で暗号化された部分とされていない部分が混在するときにダイアログを表示する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると SSL/TLS で暗号化された部分とされていない部分が混在するときにダイアログを表示します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
イントラネットゾーンでのみユーザー認証が必要なページに自動的にログオンする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとユーザー認証が必要なページに自動的にログオンするのはイントラネットゾーンに限られます。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul>
プライバシーが「中」未満の場合に「中」に設定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとプライバシー設定が「中」未満の場合に設定を「中」に設定します。</li> <li>・オフにすると設定セット適用前の状態に設定を復元します。</li> </ul> ※Windows 10 は非対応
ローカルイントラネットゾーンを既定のレベルに設定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにするとローカルイントラネットゾーンが既定のレベルになります。</li> <li>・オフにすると何も行いません。</li> </ul> ※既定以上のセキュリティレベルの場合は変更されません。
信頼済みサイトゾーンを既定のレベルに設定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると信頼済みサイトゾーンが既定のレベルになります。</li> <li>・オフにすると何も行いません。</li> </ul> ※既定以上のセキュリティレベルの場合は変更されません。
制限付きサイトゾーンを既定のレベルに設定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンにすると制限付きサイトゾーンが既定のレベルになります。</li> <li>・オフにすると何も行いません。</li> </ul> ※既定以上のセキュリティレベルの場合は変更されません。

【信頼済みサイト一覧】

項目	説明
URL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼済みサイトに登録する URL を入力します。300 件まで追加できます。</li> </ul>

【制限付きサイト一覧】

項目	説明
URL	・制限付きサイトに登録する URL を入力します。300 件まで追加できます。

※システムによりグループポリシーが設定されている場合、グループポリシーが優先されるため、設定が正しく行われ  
ない場合があります。

※グループポリシーについては、御社のシステム管理者にご相談ください。

## 2.6 MS Office ライセンス管理

MS Office ライセンスの確認、管理およびダウンロードを行うことができます。

ライセンスの保有数や使用数の確認を行うことができます。また管理ライセンスの一覧を CSV エクスポートすることが可能です。

MS Office のライセンス数は「機器」画面の「アプリ」タブ(「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作-アプリ」を参照)情報から自動的に集計されます。ソフトウェアのダウングレードなど、ライセンスの調整を行った際には、実際のライセンス数と本画面のライセンス数との間に齟齬が発生してしまう場合があります。この場合、「ID □ から ID □ ヘライセンス □ 個を移行」を使用してライセンス数の調整を行います。

### 2.6.1 MS Office ライセンス管理画面を表示する

MS Office ライセンス管理画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [MS Office ライセンス管理]をクリックします。



項番	対象	説明
1	CSV ダウンロード	ライセンス管理情報を CSV ファイルに出力します。
2	集計	ライセンスを集計します。
3	ID □ から ID □ ヘライセンス □ 個を移行	移行元のアプリケーション ID を最初のフィールド、移行先のアプリケーション ID を中央のフィールド、移行するライセンス数を最後のフィールドに記入します。[実行]ボタンを押してライセンスを移行します。
4	ID	アプリケーション固有の ID を表示します。
5	アプリケーション名	保有するライセンスのアプリケーション名を表示します。
6	ライセンス形態	ライセンスの形態を表示します。
7	保有数	保有するライセンスの数を表示します。使用数をクリックすると該当する製品名でフィルターされた「アプリケーションレポート」画面が表示されます。
8	使用数	保有するライセンスの内、機器に使用されているライセンス数を表示します。
9	残数	保有するライセンスから使用数を差し引いたライセンスの残数を表示します。
10	未認証数	未認証の機器数を表示します。未認証機器の数は赤色で表示されます。
11	移行元 ID	ライセンスの移行が行われた場合、ライセンスの移行元 ID を表示します。
12	調整数	ライセンスの移行が行われた場合の調整数(例:「-5」「15」)を表示します。
13	過不足数	「残数」に表示されたライセンスから調整数を差し引いた数を表示します。
14	[編集]アイコン	保有数の編集を行います。

【実際のライセンス調整の例】

MS Office 2007 のライセンスを 100 本持っていて 10 本不足しています。

MS Office 2010 のライセンスを 100 本持っていて 10 本余計に保有しています。

この状況を解消するために、過剰に保有している 2010 のライセンスを用いて 2007 をアクティベートしました。その結果、MS Office 2007 の保有数は「100」、使用数は「110」としてカウントされます。「残数」は「保有数」から「使用数」を差し引いた数値となるので、「-10」としてカウントされます。このままの状態ですと帳簿として不正に見えてしまうので、実際のライセンス調整オペレーションを「MS Office ライセンス管理」ページに反映できるように、MS Office 2010 から 2007 に 10 ライセンス移動します。

ID  からID  へライセンス  個を移行

ID	アプリケーション名	ライセンス形態	保有数	使用数	残数	未認証数	移行元ID	調整数	過不足数	
1	MS Office 2007	製品版または OEM 版	100	110 <input type="text"/>	-10	0		0	0	<input type="button" value="編集"/>
2										<input type="button" value="編集"/>
3	MS Office 2010	製品版または OEM 版	100	90 <input type="text"/>	10	0		0	0	<input type="button" value="編集"/>

この調整を「MS Office ライセンス管理」に反映するため、「ID  から ID  へライセンス  個を移行」フィールドを使用して調節を行います。

MS Office 2007 の ID が「1」、MS Office 2010 の ID が「3」だと仮定します。この例では編集フィールドに「ID 3 から ID 1 へライセンス 10 個を移行」と入力して[実行]ボタンをクリックします。正しく調整が完了すると、「残数」から「調整数」が差し引かれ、「過不足数」が「0」となります。

ID  からID  へライセンス  個を移行

ID	アプリケーション名	ライセンス形態	保有数	使用数	残数	未認証数	移行元ID	調整数	過不足数	
1	MS Office 2007	製品版または OEM 版	100	110 <input type="text"/>	-10	0	3	<input type="text" value="10"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="button" value="編集"/>
2										<input type="button" value="編集"/>
3	MS Office 2010	製品版または OEM 版	100	90 <input type="text"/>	10	0		-10	0	<input type="button" value="編集"/>

調整の導入により、ライセンスの状態は以下の 2 つに分類されます。

ステータス	ライセンスの状態
調整なし	調整数が未入力。
調整済み	調整数が入力されており、過不足数が「0」。

## 2.6.2 MS Office ライセンス管理画面の並び替えを行う

表示する MS Office ライセンス管理情報を並び替えます。

1. MS Office ライセンス管理画面を表示します。
2. 表の見出し部分をクリックして管理情報を並び替えます。

※「保有数」以外の項目で並び替えを行うことができます。

## 2.6.3 MS Office ライセンス一覧をダウンロードする

表示されている MS Office ライセンスを CSV ファイルとしてダウンロードします。

1. MS Office ライセンスを表示します。
2. [CSV ダウンロード]をクリックして、任意の場所に CSV ファイルを保存してください。

※件数によってはダウンロードに時間がかかる場合があります。

## 2.6.4 MS Office ライセンス一覧を編集する

表示されている MS Office ライセンスを編集します。

1. 「ID～から ID～へライセンス～個を移行」フィールドを以下のように編集します。
2. 移行元のアプリケーション ID を最初のフィールド、移行先のアプリケーション ID を中央のフィールド、移行するライセンス数を最後のフィールドに記入します。
3. [実行]ボタンを押してライセンスを移行します。

## 2.6.5 MS Office ライセンス管理タブの入力値

MS Office ライセンス管理の設定では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【保有数】	0 から 50000 の間の半角数字を入力します。

## 2.7 位置情報管理

Windows 端末の位置情報の測位を行うかどうかの設定を行います。当設定セットを用いることで、位置情報測位有無を設定することが可能です。作成した設定セットは一括機器設定および、機器ごとの設定にて適用してください。

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器—一括機器設定—一括して複数の機器に設定セットを適用する」

※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—機器—設定—単一の機器に設定テンプレートを適用する」

### 2.7.1 位置情報管理画面を表示する

位置情報管理画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [位置情報管理]をクリックします。



項番	対象	説明
1	[新規作成]	クリックすると設定入力欄が表示されます。
2	[その他の操作]	クリックすると以下のメニューが表示されます。 ・全てにチェックを入れる：全てのチェックボックスにチェックが入ります。 ・全てのチェックをはずす：全てのチェックボックスからチェックをはずします。 ・一括削除：チェックの入った位置情報管理設定を削除します。
3	設定セット一覧	登録されている設定セット一覧が表示されます。
4	設定セット情報	設定セット一覧より選択した位置情報管理設定情報が表示されます。
5	設定名	お好きな名前を入力します。
6	エージェントによる測位	エージェントによる位置情報の測位タイミングを設定します。 ・定期的に測位する：以下の設定により、定期的に位置情報の測位を行います。 ・分数指定:分 ・時間指定:時間 ・日数指定:日 ・測位しない：位置情報の測位を行いません。 ※端末の位置情報の無線ネットワークとGPSが無効の場合、測位を行いません。 ※この設定値は、機器で位置情報を測位する周期で使用します。管理サーバーへ位置情報を同期する設定値は、エージェント共通管理の「管理サーバーとの通信間隔」で設定できます。
7	[操作]	クリックすると以下のメニューが表示されます。 ・複製：位置情報管理設定を複製します。 ・削除：位置情報管理設定を削除します。
8	[編集]	登録されている位置情報管理設定情報を編集することができます。

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作－設定セット作成方法」を参照してください。

## 2.7.2 位置情報管理の設定セット入力値

位置情報管理では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。
【位置情報管理】	位置情報の測位の有無を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に測位する：以下の設定を選択し、数値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・分数指定:分</li> <li>・時間指定:時間</li> <li>・日数指定:日</li> </ul> </li> <li>・測位しない：測位を行いません。</li> </ul>

## 3 Windows - 使用制限

Windows 機器に対する使用制限の作成を行います。作成可能な設定セットは以下のとおりです。

設定項目名	ページ
<a href="#">アプリケーション禁止</a>	<a href="#">27</a>
<a href="#">外部デバイス</a>	<a href="#">31</a>
<a href="#">CD/DVD/ブルーレイ</a>	<a href="#">35</a>
<a href="#">Wi-Fi フィルタリング</a>	<a href="#">37</a>
<a href="#">スクリーンロック</a>	<a href="#">39</a>

## 3.1 アプリケーション禁止

Windows エージェントに対するアプリケーション禁止ルールに関する設定セットを作成します。当設定セットを用いることで、指定したアプリケーションの起動を禁止することが可能です。作成した設定セットは一括機器設定および、機器ごとの設定にて適用してください。なお、禁止されているアプリケーションを起動しようとした場合、禁止対象である旨のメッセージが表示され、アプリケーションの起動が行えません。

※外部デバイス、CD/DVD/ブルーレイ機能を含むアプリケーションの場合

アプリケーション禁止機能のほかに、31 ページ「外部デバイス」、35 ページ「CD/DVD/ブルーレイ」を併用している場合、外部デバイス、CD/DVD/ブルーレイを使用するアプリケーションを使用するには以下の2つの設定を行う必要があります。

- ・外部デバイス、CD/DVD/ブルーレイ機能の該当機能の画面で「許可」を選択
- ・アプリケーション禁止機能で該当アプリケーションを「許可」に設定  
(「許可するアプリケーションを指定する」で許可アプリケーションとして登録、もしくは、「禁止するアプリケーションを指定する」で禁止アプリケーションとして該当アプリケーションを指定しない。)  
いずれかが「禁止」と設定されている場合は、使用できません。

※ウインドウ名にてアプリケーション禁止が動作しないケースもございますので、必ず事前確認の上設定を行ってください。

ウインドウ名にてアプリケーション禁止が動作しない場合は、お手数ですが、実行ファイル名でのアプリケーション禁止設定をご確認ください。

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器 ― 一括機器設定 ― 一括して複数の機器に設定セットを適用する」

※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作 ― 機器 ― 設定 ― 単一の機器に設定テンプレートを適用する」

### 3.1.1 アプリケーション禁止画面を表示する

アプリケーション禁止画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [アプリケーション禁止]をクリックします。

新規作成

設定

設定 - 編集 中

**1** 設定名

**2** 実行ファイル名またはパッケージファミリー名で禁止するアプリケーション

アプリケーション名	実行ファイル名またはパッケージファミリー名
(+ボタンで追加: 300件まで) <span style="float: right;">+</span>	

※禁止できる実行ファイルはexeファイルのみです。  
 ※実行ファイル名には拡張子(.exe)を含めないでください。  
 例)ペイント (実行ファイル名がmspaint.exe) を禁止する場合は「mspaint」と入力します。  
 ※UWPアプリケーションの場合にはパッケージファミリー名で指定してください。

**3** ウィンドウ名で禁止するアプリケーション

アプリケーション名	ウィンドウ名	条件
(+ボタンで追加: 300件まで) <span style="float: right;">+</span>		

項番	対象	説明
1	設定名	お好きな名前を入力します。
2	実行ファイル名またはパッケージファミリー名で禁止するアプリケーション	実行ファイル名を指定し、アプリケーションの起動を禁止します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリケーション名：アプリケーション名を入力します。(アプリケーション名はお好きなものを入力してください。)</li> <li>・実行ファイル名またはパッケージファミリー名：実行ファイル名またはパッケージファミリー名を入力します。 パッケージファミリー名については、「パッケージファミリー名の探し方」29 ページを参照してください。</li> </ul> ※禁止できるファイルは exe ファイルのみです。 ※実行ファイル名またはパッケージファミリー名には拡張子(.exe)を含めないでください。 例)ペイント (実行ファイル名が mspaint.exe) を禁止する場合は「mspaint」と入力します。 ※[追加]  をクリックすると、入力欄が追加されます。 ※[削除]  をクリックすると、入力欄が削除されます。
3	ウィンドウ名で禁止するアプリケーション	ウィンドウ名を指定し、アプリケーションの起動を禁止します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリケーション名：アプリケーション名を入力します。(アプリケーション名はお好きなものを入力してください。)</li> <li>・ウィンドウ名：ウィンドウ名を入力します。</li> <li>・条件：「と一致する」「を含む」のどちらかを選択します。</li> </ul> 例)ペイントで作成されたファイルすべてを禁止する場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィンドウ名：「ペイント」</li> <li>・条件：「を含む」を選択</li> </ul> ウィンドウ名が「abc.png - ペイント」というペイントファイルを禁止する場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィンドウ名：「abc.png - ペイント」</li> <li>・条件「と一致する」を選択</li> </ul> ※[追加]  をクリックすると、入力欄が追加されます。 ※[削除]  をクリックすると、入力欄が削除されます。

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—設定セ  
ット作成方法」を参照してください。

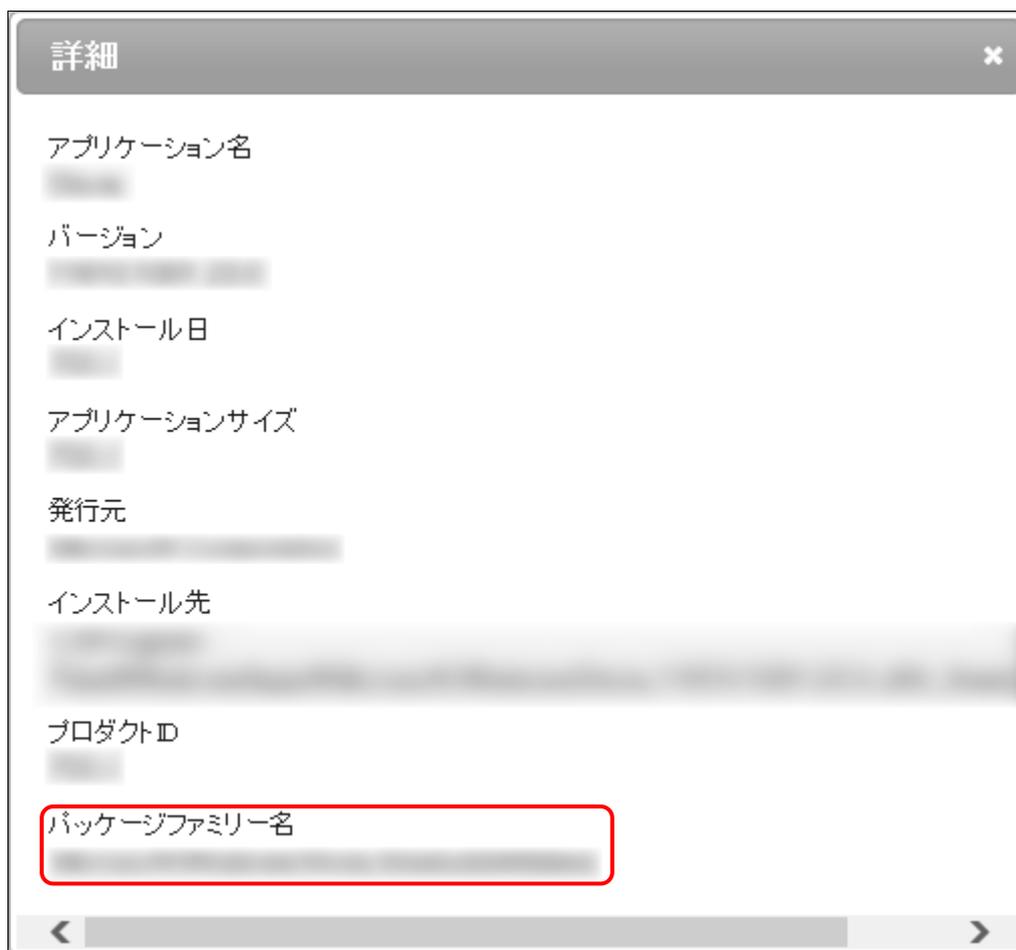
### 3.1.1.1 パッケージファミリー名の探し方

パッケージファミリー名は、Windows 機器に既に登録されているアプリケーション一覧で確認します。

機器画面の[アプリ]タブを表示しアプリケーション一覧から、該当のアプリケーションの[詳細]をクリックすると、表示されるパネルにパッケージファミリー名があります。

※機器画面の[アプリ]タブの詳細は以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作－機器－アプリ【Windows 機器の場合】」



### 3.1.2 アプリケーション禁止の設定セット入力値

アプリケーション禁止では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール						
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。						
【実行ファイル名またはパッケージファミリー名で禁止するアプリケーション】	実行ファイル名で禁止対象となるアプリケーションを指定します。						
	<table border="1"> <tr> <td>アプリケーション名</td> <td>アプリケーション名を入力します。 60文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。</td> </tr> <tr> <td>実行ファイル名またはパッケージファミリー名</td> <td>実行ファイル名またはパッケージファミリー名を入力します。指定可能なファイルはexeファイルのみです。拡張子は入力しないでください。 255文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。 また、次の文字種は入力できません。 「¥」、「/」、「&lt;」、「&gt;」、「*」、「?」、「"」、「 」、「:」</td> </tr> </table>	アプリケーション名	アプリケーション名を入力します。 60文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。	実行ファイル名またはパッケージファミリー名	実行ファイル名またはパッケージファミリー名を入力します。指定可能なファイルはexeファイルのみです。拡張子は入力しないでください。 255文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。 また、次の文字種は入力できません。 「¥」、「/」、「<」、「>」、「*」、「?」、「"」、「 」、「:」		
アプリケーション名	アプリケーション名を入力します。 60文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。						
実行ファイル名またはパッケージファミリー名	実行ファイル名またはパッケージファミリー名を入力します。指定可能なファイルはexeファイルのみです。拡張子は入力しないでください。 255文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。 また、次の文字種は入力できません。 「¥」、「/」、「<」、「>」、「*」、「?」、「"」、「 」、「:」						
【ウインドウ名で禁止するアプリケーション】	ウインドウ名で禁止対象となるアプリケーションを指定します。						
	<table border="1"> <tr> <td>アプリケーション名</td> <td>アプリケーション名を入力します。 60文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。</td> </tr> <tr> <td>ウインドウ名</td> <td>ウインドウ名を入力します。 アプリケーションを起動した際にタイトルバーに表示される文字列から指定してください。 255文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。</td> </tr> <tr> <td>条件</td> <td>指定するウインドウ名のマッチング条件を設定します。 以下から選択します。 ・と一致する ・を含む</td> </tr> </table>	アプリケーション名	アプリケーション名を入力します。 60文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。	ウインドウ名	ウインドウ名を入力します。 アプリケーションを起動した際にタイトルバーに表示される文字列から指定してください。 255文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。	条件	指定するウインドウ名のマッチング条件を設定します。 以下から選択します。 ・と一致する ・を含む
	アプリケーション名	アプリケーション名を入力します。 60文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。					
ウインドウ名	ウインドウ名を入力します。 アプリケーションを起動した際にタイトルバーに表示される文字列から指定してください。 255文字以内で入力してください。制御文字は入力できません。						
条件	指定するウインドウ名のマッチング条件を設定します。 以下から選択します。 ・と一致する ・を含む						

## 3.2 外部デバイス

外部デバイスの使用を禁止する機能です。USB デバイス、SD デバイス、IEEE1394 デバイスの使用を禁止することができます。

外部デバイスの使用を禁止した場合には、外部デバイスのハードウェア ID、インスタンスパスまたはシリアル ID を指定することにより特定デバイスを許可すること(ホワイトリスト)が可能です。

全ての USB の使用を禁止した場合、外部、内部を含む USB デバイスが利用できなくなります。(USB を利用するアプリケーションの中には、起動から禁止される場合もあります。)また、全ての USB の使用を禁止した場合でも、スマートフォンを USB 接続した場合の充電は禁止されません。

※設定の際は、注意して設定してください。

※一部のスマートフォンなどのデバイスでは接続の際に使用されるドライバーによってポータブルデバイス、ストレージ以外の接続機能の提供、およびアプリケーションを使用したファイル転送などの機能を提供しています。このようなデバイスの場合、「禁止(ストレージおよびポータブルデバイス)」では USB 機器の利用は禁止できません。個別にアプリケーションの起動禁止を行うか、または USB の「禁止」(すべての USB)機能などでの対応の検討が必要です。

※禁止設定を解除またはホワイトリストに登録した場合、USB デバイスを挿しなおすことでご利用いただけます。

※禁止設定を解除した後も USB デバイスを認識しない場合は、該当機器のドライバーを再インストールしてください。

※全ての USB の使用を禁止した場合、お使いの機器によってはキーボード、マウスなどによる入力ができなくなることがあります。必要に応じてホワイトリスト(「許可デバイス(ハードウェア ID)」 「許可デバイス(インスタンスパスまたはシリアル ID)」)に入力機器を登録してください。

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器 ― 一括機器設定 ― 一括して複数の機器に設定セットを適用する」

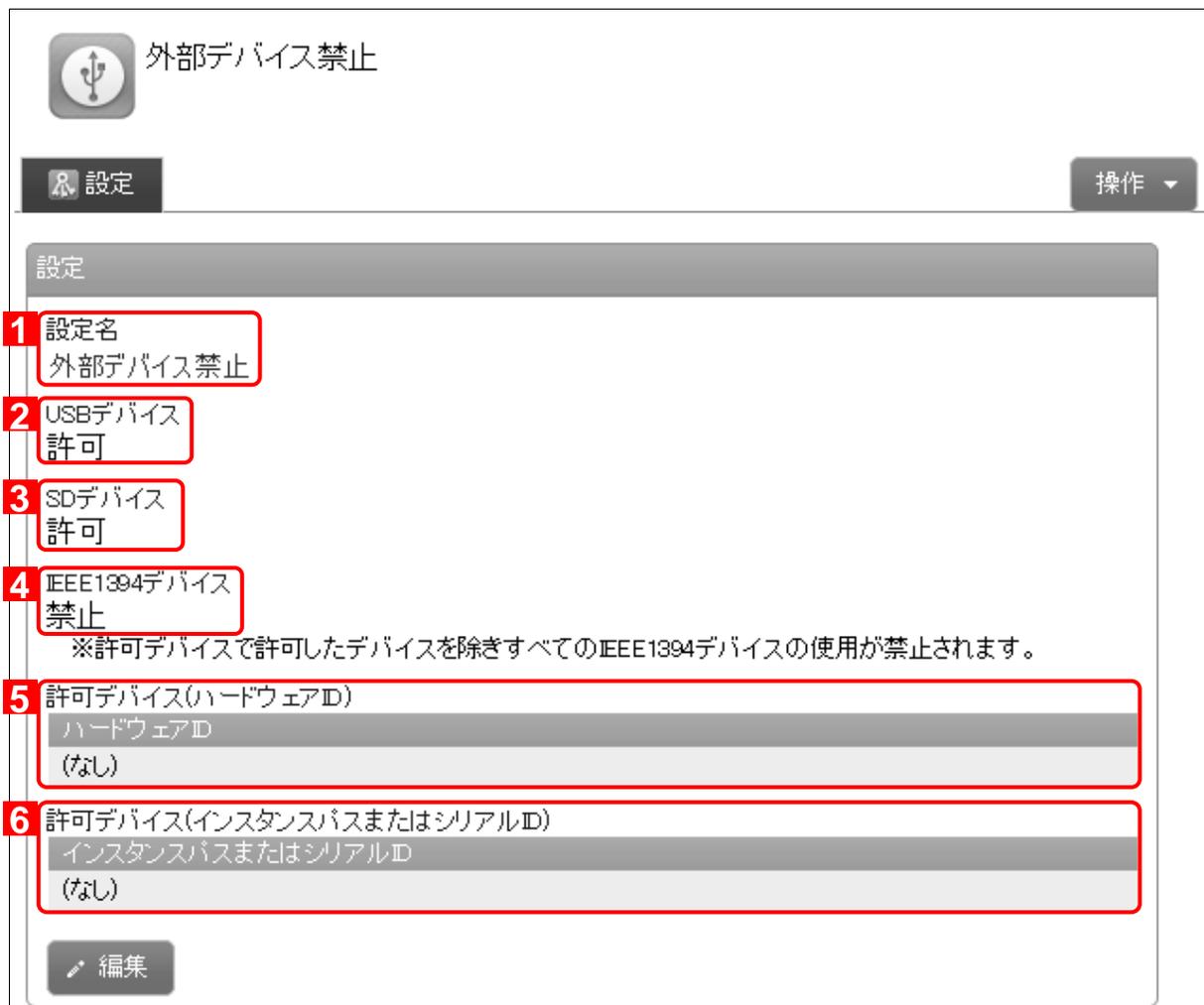
※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作 ― 機器 ― 設定 ― 単一の機器に設定テンプレートを適用する」

### 3.2.1 外部デバイス画面を表示する

外部デバイス画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [外部デバイス]をクリックします。



項番	対象	説明
1	設定名	お好きな名前を入力します。
2	USB デバイス	<p>USB デバイスの使用制限を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許可：USB デバイスの利用を許可します。</li> <li>・禁止(ストレージへの書き込み)：USB メモリ等の USB 大容量記憶装置への書き込みを禁止します。</li> </ul> <p>※マウス、キーボードなどは禁止されません。          ※ストレージからの読み取りは禁止されません。          ※端末を再起動した後に設定が反映されます。          ※ホワイトリストは使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・禁止(ストレージのみ)：USB メモリ等の USB 大容量記憶装置の使用を禁止します。</li> </ul> <p>※許可デバイスで指定された USB デバイスは許可されます。          ※マウス、キーボードなどは禁止されません。          ※スマートフォンなどは禁止されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・禁止(ストレージおよびポータブルデバイス)：USB メモリ等の USB 大容量記憶装置に加えて、ポータブルデバイスを禁止します。WPD(Windows ポータブル デバイス)として PC に認識されている USB 機器の使用を禁止することができます。WPD は携帯電話、デジタル カメラ、ポータブルメディアプレーヤーなどの多くの携帯機器で利用される接続機能です。</li> </ul> <p>※許可デバイスで指定された USB デバイスは許可されます。          ※ストレージ以外にスマートフォンなどのポータブルデバイスも禁止されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・禁止：全ての USB デバイスの利用を禁止します。</li> </ul> <p>※許可デバイスで指定されたデバイスを除きすべての USB デバイスの使用が禁止されません。          ※USB 接続の充電は禁止されません。</p>
3	SD デバイス	<p>SD デバイスの使用制限を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許可：SD デバイスの利用を許可します。</li> <li>・禁止(ストレージおよびポータブルデバイス)：SD デバイスの使用を禁止します。ただし、SD として認識されるマウスやキーボード等への接続は禁止されません。</li> </ul> <p>※ストレージ以外にスマートフォンなどのポータブルデバイスも禁止されます。          ※許可デバイスで指定された SD デバイスは許可されます。          ※端末により禁止できないものがあります。</p>
4	IEEE1394 デバイス	<p>IEEE1394 デバイスの使用制限を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許可：IEEE1394 デバイス禁止の利用を許可します。</li> <li>・禁止：許可デバイスで指定されたデバイスを除きすべての IEEE1394 デバイスの使用が禁止されます。</li> </ul>
5	許可デバイス(ハードウェア ID)	<p>許可する外部デバイスのハードウェア ID を入力します。</p> <p>※300 件まで追加が可能です。          ※[追加]  をクリックすると、入力欄が追加されます。          ※[削除]  をクリックすると、入力欄が削除されます。</p>
6	許可デバイス(インスタンスパスまたはシリアル ID)	<p>許可する外部デバイスのインスタンスパスまたはシリアル ID を入力します。</p> <p>※300 件まで追加が可能です。          ※[追加]  をクリックすると、入力欄が追加されます。          ※[削除]  をクリックすると、入力欄が削除されます。</p>

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—設定セット作成方法」を参照してください。

## 3.2.2 外部デバイスの設定セット入力値

外部デバイスの設定では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。
【USB デバイス】	<p>USB デバイスの使用制限を行います。以下から選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許可：USB デバイスの利用を許可します。</li> <li>・禁止(ストレージへの書き込み)：USB メモリ等の USB 大容量記憶装置への書き込みを禁止します。</li> <li>・禁止(ストレージのみ)：USB メモリ等の USB 大容量記憶装置の使用を禁止します。</li> <li>・禁止(ストレージおよびポータブルデバイス)：USB メモリ等の USB 大容量記憶装置に加えて、ポータブルデバイスを禁止します。WPD(Windows ポータブル デバイス)として PC に認識されている USB 機器の使用を禁止することができます。WPD は携帯電話、デジタル カメラ、ポータブルメディアプレーヤーなどの多くの携帯機器で利用される接続機能です。</li> <li>・禁止：全ての USB デバイスの利用を禁止します。</li> </ul>
【SD デバイス】	<p>SD デバイスの使用制限を行います。以下から選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許可：SD デバイスの利用を許可します。</li> <li>・禁止(ストレージおよびポータブルデバイス)：SD デバイスの使用を禁止します。ただし、SD として認識されるマウスやキーボード等への接続は禁止されません。</li> </ul> <p>※端末により禁止できないものがあります。</p>
【IEEE1394 デバイス】	<p>IEEE1394 デバイスの使用制限を行います。以下から選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許可：IEEE1394 デバイス禁止の利用を許可します。</li> <li>・禁止：許可デバイスで指定されたデバイスを除きすべての IEEE1394 デバイスの使用が禁止されます。</li> </ul>
【許可デバイス(ハードウェアID)】	<p>許可する外部デバイスのハードウェア ID を入力します。 確認したハードウェア ID の形式にしたがって入力してください。 半角英数字と記号で入力してください。 ※デバイスによって入力値が異なる場合がございます。 ※ハードウェア ID は最大 300 件まで登録できます。</p>
【許可デバイス(インスタンスパスまたはシリアルID)】	<p>許可する外部デバイスのインスタンスパスまたはシリアル ID を入力します。 確認したインスタンスパスまたはシリアル ID の形式にしたがって入力してください。 半角英数字と記号で入力してください。 ※デバイスによって入力値が異なる場合がございます。 ※インスタンスパスとシリアル ID は合計最大 300 件まで登録できます。</p>

### 3.3 CD/DVD/ブルーレイ

CD/DVD/ブルーレイ及びフロッピーディスク(FD)の使用を禁止する機能です。作成した設定セットは一括機器設定および、機器ごとの設定にて適用後、機器を再起動することで有効となります。本機能で CD/DVD/ブルーレイの利用を禁止した場合、アプリケーションから CD/DVD/ブルーレイが利用できなくなります。(CD/DVD/ブルーレイを利用するアプリケーションの中には、起動から禁止される場合もあります。)

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器―一括機器設定―一括して複数の機器に設定セットを適用する」

※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作―機器―設定―単一の機器に設定テンプレートを適用する」

#### 3.3.1 CD/DVD/ブルーレイ画面を表示する

CD/DVD/ブルーレイ画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [CD/DVD/ブルーレイ]をクリックします。

新規作成

設定 操作

設定 - 編集

※端末を再起動した後に設定が反映されます。

1 設定名

2 CD/DVD/ブルーレイ

- 許可
- 書き込み禁止
- 禁止

3 FD

- 許可
- 禁止

保存 取消

項番	対象	説明
1	設定名	お好きな名前を入力します。
2	CD/DVD/ブルーレイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・許可：CD/DVD/ブルーレイの使用を許可します。</li> <li>・書き込み禁止：CD/DVD/ブルーレイの書き込みを禁止します。</li> <li>・禁止：CD/DVD/ブルーレイの使用を禁止します。</li> </ul>
3	FD	<ul style="list-style-type: none"> <li>・許可：FDの使用を許可します。</li> <li>・禁止：FDの使用を禁止します。</li> </ul>

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作－設定セット作成方法」を参照してください。

### 3.3.2 CD/DVD/ブルーレイの設定セット入力値

CD/DVD/ブルーレイの設定では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。
【CD/DVD/ブルーレイ】	CD/DVD/ブルーレイの使用設定を行います。以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・許可：CD/DVD/ブルーレイの利用を許可します。</li> <li>・書き込み禁止：CD/DVD/ブルーレイの書き込みを禁止します。</li> <li>・禁止：CD/DVD/ブルーレイの利用を禁止します。</li> </ul>
【FD】	FDの使用設定を行います。以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・許可：FDの利用を許可します。</li> <li>・禁止：FDの利用を禁止します。</li> </ul>

## 3.4 Wi-Fi フィルタリング

特定の無線 LAN アクセスポイントのみ接続を許可する機能です。指定された SSID または MAC アドレス以外への Wi-Fi 接続は禁止されます。作成した設定セットは一括機器設定および、機器ごとの設定にて適用してください。Windows エージェントは Wi-Fi 接続時に接続先アクセスポイントの SSID および MAC アドレスを、許可するネットワークリストと比較し、接続を許可・中断します。

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器一括機器設定一括して複数の機器に設定セットを適用する」

※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作機器設定単一の機器に設定テンプレートを適用する」

### 3.4.1 Wi-Fi フィルタリング画面を表示する

Wi-Fi フィルタリング画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [Wi-Fi フィルタリング]をクリックします。

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 許可するネットワーク

SSID	MACアドレス	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	✕
(+ボタンで追加: 300件まで)		
+		

✓ 保存

項番	対象	説明
1	設定名	好きな名前を入力します。
2	許可するネットワーク	端末に接続を許すネットワークリストを作成します。 ・SSID : SSID を入力します。 ・MAC アドレス : アクセスポイントの MAC アドレスを入力します。 ※300 件まで追加が可能です。 ※MAC アドレスの指定は任意です。 ※MAC アドレスとは、アクセスポイントの BSSID を意味します。 ※同一の SSID に複数の MAC アドレスを指定することが可能です。 ※[追加]  をクリックすると、入力欄が追加されます。 ※[削除]  をクリックすると、入力欄が削除されます。

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—設定セット作成方法」を参照してください。

### 3.4.2 Wi-Fi フィルタリングの設定セット入力値

Wi-Fi フィルタリングの設定では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール	
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。	
【許可するネットワーク】	Wi-Fi フィルタリングの使用設定を行います。	
	SSID	許可するネットワークに追加する SSID 名を入力します。 入力必須です。 32文字以内で入力してください。 半角英数字、「-」、「_」、「@」のみで入力してください。
	MAC アドレス	アクセスポイントの MAC アドレスを入力します。 XX:XX:XX:XX:XX:XX(Xは大文字の16進数)という形式で入力してください。

## 3.5 スクリーンロック

当画面では、スクリーンセーバーのタイムアウトの指定や、パスワードの強度を指定することで、セキュリティを強化することが可能です。また、Windows 端末起動時のパスワード入力を一定回数失敗した場合にリモートロック、リモートワイプを行うことも可能です。作成した設定セットは一括機器設定および、機器ごとの設定にて適用してください。

※本機能はパスワードのポリシーを定めますが、パスワード自体を管理するのは Windows OS です。管理サイトではパスワードの保持を行いませんのでご注意ください。

※Windows 端末に Windows グループポリシーが適用されている場合、Windows グループポリシーのスクリーンセーバー設定が最優先されます。また本機能は、Windows 端末のコントロールパネルから設定したスクリーンセーバー設定よりも優先されます。

※一部の Windows エディション(「Starter」、「Home」、通常版の一部)ではスクリーンセーバーの設定を行うことはできません。

※対象端末が Windows ドメインで管理されている場合、当機能の設定を端末に反映するにはドメインでのスクリーンセーバーの設定を「未構成」に設定する必要があります。またパスワードポリシーの設定は、Windows ドメインで管理されている端末には反映することはできません。

※パスワードポリシーの「有効期間」を「0 日」に設定した場合、パスワードの期限は設定されず、無期限となります。

※パスワードポリシーは、基本的に本機能を端末に適用後、パスワードの変更時または作成時に適用されます。ただし「有効期間」に関しては、本機能を端末に適用時から有効となります。

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器 ―一括機器設定―一括して複数の機器に設定セットを適用する」

※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作 ―機器―設定―単一の機器に設定テンプレートを適用する」

### 3.5.1 スクリーンロック画面を表示する

スクリーンロック画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [Windows - 使用制限]の[スクリーンロック]をクリックします。

The screenshot shows the 'Screen Lock (Windows)' settings page. The page has a header with a lock icon and the title 'スクリーンロック(Windows)'. Below the title are two buttons: '設定' (Settings) and '操作' (Action). The main content area is titled '設定 - 編集' (Settings - Edit) and contains several sections, each highlighted with a red box and a numbered callout:

- 1 設定名**: A text input field containing 'スクリーンロック(Windows)'.
- 2 スクリーンセーバー**: A section with radio button options:
  - 端末の設定を変更しない
  - ユーザーの設定を優先する
  - スクリーンセーバーを無効にする
  - スクリーンセーバーを有効にするBelow these options is a sub-section 'スクリーンセーバーをパスワードで保護' with a radio button option:
  - 端末の設定を変更しない
- 3 パスワードポリシー**: A section with radio button options:
  - 端末の設定を変更しない
  - 以下の制限を設定するBelow these options are three input fields:
  - 文字数: [ ] 文字以上
  - 有効期間: [ ] 日
  - 履歴記録数: [ ] 個
- 4 ロック解除失敗時の設定**: A section with radio button options:
  - 端末の設定を変更しない
  - [10] 回失敗でリモートロックBelow these options is a text input field labeled 'ロックメッセージ'.

項番	対象	説明
1	設定名	お好きな名前を入力します。
2	スクリーンセーバー	Windows スクリーンセーバーの動作を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端末の設定を変更しない：端末の設定を変更せず、端末で決められた設定に従います。</li> <li>・ ユーザーの設定を優先する：一旦、本機能で「スクリーンセーバーを無効にする」または「スクリーンセーバーを有効にする」の設定を適用後、ユーザーが端末上でスクリーンセーバーの設定ができるように戻す場合に選択します。</li> <li>・ スクリーンセーバーを無効にする：スクリーンセーバーの設定を解除し、ユーザーが端末からスクリーンセーバーの設定を変更できないようにします。</li> <li>・ スクリーンセーバーを有効にする：スクリーンセーバーを有効に設定し、ユーザーが端末からスクリーンセーバーの設定を変更できないようにします。以下で詳細を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スクリーンセーバーをパスワードで保護：スクリーンセーバーを解除する際のパスワード入力の設定を指定します。「端末の設定を変更しない」「有効にする」「無効にする」から選択します。</li> </ul> </li> </ul> <p>※「有効にする」を選択しても、端末上でパスワードが設定されていない場合は、パスワード保護がかかりませんのでご注意ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スクリーンセーバーのタイムアウト：スクリーンセーバーを起動するまでのタイムアウト時間(待ち時間)を設定します。</li> </ul>
3	パスワードポリシー	スクリーンロックのパスワードの複雑さに対しての要求を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端末の設定を変更しない：端末の設定は変更せず、端末で決められた設定に従います。</li> <li>・ 以下の制限を設定する：以下の制限を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字数：パスワード長を指定します。</li> <li>・ 有効期間：パスワードの有効期限を日数で指定します。</li> <li>・ 履歴記録数：1度使用したパスワードを再利用できるまでに必要なパスワード変更回数を設定し、指定した変更回数を超えない限り、以前使ったことがあるパスワードの使用を禁止します。</li> <li>・ 変更禁止期間：パスワードの変更禁止期間を指定します。</li> <li>・ 複雑なパスワードを強制する：Windows で決められた複雑さの要件を強制します。複雑さの要件についての詳細は、以下の URL を参照してください。  <a href="https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh994562.aspx">https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh994562.aspx</a> </li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端末の設定を変更しない：端末の設定は変更せず、端末で決められた設定に従います。</li> <li>・ 有効にする：複雑なパスワードを強制します。</li> <li>・ 無効にする：複雑なパスワードを強制しません。</li> </ul>
4	ロック解除失敗時の設定	ロック解除に失敗した場合の動作を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端末の設定を変更しない：現在の設定を変更しません。</li> <li>・ ○回失敗でリモートロック：ロック解除に指定回数失敗した場合、機器がリモートロックされるよう設定します。「ロックメッセージ」にロック時のメッセージを入力します。</li> <li>・ ○回失敗でリモートワイプ：ロック解除に指定回数失敗した場合、機器が初期化されるよう設定します。「ワイプの方法」で「BitLocker」と「データ削除」のいずれかを選択します。「BitLocker」と「データ削除」については、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作－機器－リモート操作－リモートワイプを行う(Windows 機器)」を参照してください。</li> <li>・ リモートロック／ワイプを行わない：ロック解除失敗時に何も行いません。</li> </ul>

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作－設定セット作成方法」を参照してください。

### 3.5.2 スクリーンロックの設定セット入力値

スクリーンロックの設定では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。
【スクリーンセーバー】	<p>Windows スクリーンセーバーの動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端末の設定を変更しない：端末の設定を変更せず、端末で決められた設定に従います。</li> <li>・ ユーザーの設定を優先する：一旦、本機能で「スクリーンセーバーを無効にする」または「スクリーンセーバーを有効にする」の設定を適用後、ユーザーが端末上でスクリーンセーバーの設定ができるように戻す場合に選択します。</li> <li>・ スクリーンセーバーを無効にする：スクリーンセーバーの設定を解除し、ユーザーが端末からスクリーンセーバーの設定を変更できないようにします。</li> <li>・ スクリーンセーバーを有効にする：スクリーンセーバーを有効に設定し、ユーザーが端末からスクリーンセーバーの設定を変更できないようにします。以下で詳細を設定します。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スクリーンセーバーをパスワードで保護：スクリーンセーバーを解除する際のパスワード入力の設定を指定します。以下より選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端末の設定を変更しない：一旦、本機能で「有効にする」または「無効にする」の設定を適用後、ユーザーが端末上でスクリーンセーバーのパスワード保護設定を変更できるように戻す場合に選択します。</li> <li>・ 有効にする：スクリーンセーバー解除の際にパスワード入力が要求されます。同時に、ユーザーがスクリーンセーバーのパスワード保護設定を端末から変更できないようにします。</li> <li>・ 無効にする：スクリーンセーバー解除の際にパスワード入力は要求されません。同時に、ユーザーがスクリーンセーバーのパスワード保護設定を端末から変更できないようにします。</li> </ul> </li> </ul> <p>※「有効にする」を選択しても、端末上でパスワードが設定されていない場合は、パスワード保護がかかりませんのでご注意ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スクリーンセーバーのタイムアウト：以下より選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端末の設定を変更しない：一旦、本機能で「時間を指定」を適用後、ユーザーが端末上でスクリーンセーバーのタイムアウト設定を変更できるように戻す場合に選択します。</li> <li>・ 時間を指定〇分：スクリーンセーバーを起動するまでのタイムアウト時間(待ち時間)を分数で設定します。1以上、1440以下で指定します。同時に、ユーザーがスクリーンセーバーのタイムアウト設定を端末から変更できないようにします。</li> </ul> </li> </ul>
【パスワードポリシー】	<p>スクリーンロックのパスワードの複雑さに対する要求を行います。以下より選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端末の設定を変更しない：端末の設定を変更せず、端末で決められた設定に従います。</li> <li>・ 以下の制限を設定する：以下の制限を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字数：パスワード長を文字数で指定します。半角数字のみ入力できます。1以上14以下で指定してください。</li> <li>・ 有効期間：パスワードの有効期限を日数で指定します。半角数字のみ入力できます。0以上999で指定してください。※パスワードポリシーの「有効期間」を「0日」に設定した場合、パスワードの期限は設定されず、無期限となります。</li> <li>・ 履歴記録数：1度使用したパスワードを再利用できるまでに必要なパスワード変更回数を設定し、指定した変更回数を超えない限り、以前使ったことがあるパスワードの使用を禁止します。半角数字のみ入力できます。0以上24以下で指定してください。</li> <li>・ 変更禁止期間：パスワードの変更禁止期間を日数で指定します。半角数字のみ入力できます。有効期間が0日の場合、0以上998以下の整数で指定してください。有効期間が0日以外の場合、禁止期間は有効期間日数よりも少ない数値で指定してください(998まで)。</li> <li>・ 複雑なパスワードを強制する：Windowsで決められた複雑さの要件を強制します。複雑さの要件についての詳細は、以下のURLを参照してください。 <a href="https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh994562.aspx">https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh994562.aspx</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端末の設定を変更しない：端末の設定は変更せず端末で決められた設定に従います。</li> <li>・ 有効にする：複雑なパスワードを強制します。</li> <li>・ 無効にする：複雑なパスワードを強制しません。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

項目名	ルール
【ロック解除失敗時の設定】	<p>ロック解除失敗時の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・端末の設定を変更しない：チェックを入れることで現在の設定状態を保持します。</li><li>・○回失敗でリモートロック：ロック解除に指定回数失敗した場合、機器がリモートロックされるよう設定します。「ロックメッセージ」にロック時のメッセージを入力します(任意)。200文字以内で入力してください。制御文字の入力はできません。※空白類(タブ、改行等)は入力できません。</li><li>・○回失敗でリモートワイプ：ロック解除に指定回数失敗した場合、機器がリモートワイプされるよう設定します。「ワイプの方法」で「BitLocker」と「データ削除」のいずれかを選択します。</li><li>・リモートロック／ワイプを行わない：ロック解除失敗時に何も行いません。</li></ul>

## 4 Windows - セットアップ

Windows セットアップに対する設定および、設定セットの作成を行います。作成可能な設定セットは以下のとおりです。

設定項目名	ページ
<a href="#">暗号化</a>	<a href="#">45</a>
<a href="#">プロキシ</a>	<a href="#">47</a>
<a href="#">アプリケーション配信</a>	<a href="#">49</a>
<a href="#">Wi-Fi</a>	<a href="#">51</a>

## 4.1 暗号化

BitLocker を使用して、お使いの Windows 機器のシステムドライブおよびデータドライブのデータを暗号化します。作成した設定セットは一括機器設定および、機器ごとの設定にて適用してください。

※BitLocker は Windows が提供する暗号化機能です。本機能は BitLocker 機能を備える OS(Windows 7 Enterprise または Ultimate、Windows 8 以上の Pro または Enterprise)にのみ対応しています。

ただし、以下に該当する機器については対象外となります。

- ・既に本製品以外の暗号化ツールを導入している機器
- ・デュアルブート環境等、およびパーティション変更ツール等を導入している機器
- ・Windows7 で TPM が非搭載の機器

※上記の条件を満たす全ての Windows 機器に暗号化が行える保障はございません。事前に動作確認を行ってください。

本機能で、暗号化が行えない場合や BitLocker のオプション機能が必要な場合は、手動にて暗号化する事をご検討ください。

※ドライブレターが割り当てられていないドライブは暗号化の対象になりません。ドライブレターを設定してから暗号化を行うか、手動で暗号化を行ってください。

※回復キーについては、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—機器—セキュリティ (Windows 機器のみ)」を参照してください。

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器—一括機器設定—一括して複数の機器に設定セットを適用する」

※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—機器—設定—単一の機器に設定テンプレートを適用する」

### 4.1.1 暗号化画面を表示する

暗号化画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [暗号化]をクリックします。

項番	対象	説明
1	設定名	好きな名前を入力します。
2	BitLockerの有効化/無効化	暗号化の有効化/無効化を指定します。

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—設定セット作成方法」を参照してください。

#### 4.1.2 暗号化の設定セット入力値

暗号化の設定では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。
【BitLockerの有効化/無効化】	暗号化の利用可否を指定します。 ・有効化する：暗号化を利用します。 ・無効化する：暗号化を利用しません。

## 4.2 プロキシ

インターネット接続に利用するプロキシサーバーの設定を行う機能です。本設定では、端末のインターネットオプションのプロキシサーバーの設定を行います。作成した設定セットは一括機器設定および、機器ごとの設定にて適用してください。

※一括機器設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 機器」の「機器一括機器設定一括して複数の機器に設定セットを適用する」

※機器ごとの設定に関しては以下を参照してください。

⇒「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作機器設定単一の機器に設定テンプレートを適用する」

### 4.2.1 プロキシ画面を表示する

プロキシ画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [プロキシ]をクリックします。

新規作成

設定

設定 - 編集

**1** 設定名

**2** プロキシ設定の利用  
 利用する  
 利用しない

**3** プロキシサーバー設定

	種類	プロキシサーバーアドレス	ポート
<input type="checkbox"/>	HTTP		
<input type="checkbox"/>	Secure		
<input type="checkbox"/>	FTP		
<input type="checkbox"/>	Socks		

全てのプロトコルに同じプロキシサーバーを使用する

**4** 例外設定

アドレス

(+ボタンで追加: 10件まで)

※設定を誤った場合通信不能となり、制御できなくなってしまうため十分ご確認ください。

✓ 保存

項番	対象	説明
1	設定名	好きな名前を入力します。
2	プロキシ設定の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用する：プロキシを利用し、接続先のプロキシサーバーを指定します。</li> <li>・利用しない：プロキシを利用しません。</li> </ul>
3	プロキシサーバー設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種別：設定できるプロキシサーバーのプロトコル種別です。利用する種別のチェックボックスをオンにします。</li> <li>・プロキシサーバーアドレス：指定するプロキシサーバーのアドレスです。</li> <li>・ポート：各プロトコルで利用するポート番号を指定します。</li> <li>・全てのプロトコルに同じプロキシサーバーを使用する：全てのプロトコル種別に同一のプロキシサーバーを指定する場合にチェックします。</li> </ul>
4	例外設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドレス：例外として許可するプロキシサーバーを指定します。</li> </ul> ※[追加] <input type="checkbox"/> をクリックすると、入力欄が追加されます。 ※[削除] <input type="checkbox"/> をクリックすると、入力欄が削除されます。

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—設定セット作成方法」を参照してください。

## 4.2.2 プロキシの設定セット入力値

プロキシの設定では以下の入力ルールで設定を行います。

項目名	ルール	
【設定名】	設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。	
【プロキシ設定の利用】	以下より選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用する：プロキシを利用し、接続先のプロキシサーバーを指定します。</li> <li>・利用しない：プロキシを利用しません。このチェックボックスをチェックすると「プロキシサーバー設定」は使用できません。</li> </ul>	
【プロキシサーバー設定】	種別	プロトコル種別ごとにプロキシサーバーを指定します。HTTP、Secure、FTP、Socks プロトコルでの指定が可能です。各種別のチェックボックスをチェックすると、「プロキシサーバーアドレス」と「ポート」が入力可能になります。 ※チェックボックスのチェックを外しても「プロキシサーバーアドレス」と「ポート」の入力値はクリアされません。
	プロキシサーバーアドレス	プロキシサーバーのアドレスを指定します。200文字以内で入力してください。半角英数字、記号のみで入力してください。先頭は「http://」か「https://」にしてください。 ※誤ったプロキシ設定を行った場合には、Internet Explorer によるインターネット接続や自動での Windows Update が接続不可となる可能性があります。
	ポート	各プロトコルで利用するポート番号を指定します。入力必須です。半角数字のみ入力できます。0以上65535以下を指定してください。
	全てのプロトコルに同じプロキシサーバーを使用する	このチェックボックスで全てのプロトコル種別に同一のプロキシサーバーを指定します。
【例外設定】	アドレス	例外として許可するプロキシサーバーを指定します。10件以下にしてください。重複しないものを入力してください。

## 4.3 アプリケーション配信

指定したアプリケーションの自動配布を行います。

配信対象のファイルはサイレントインストールオプションに対応している以下の種類のファイルのみです。

(MSI ファイル、exe ファイル、bat ファイル、com ファイル、cmd ファイル)

MSI ファイル以外は、「起動オプション」でサイレントインストールオプションを明示的に指定する必要があります。

※サイレントインストールオプションに未対応のファイルはご利用いただけません。

※サイレントインストールオプションの対応可否につきましてはファイルのご提供元へお問い合わせください。

※アプリケーション削除機能はありません。

※アプリケーション禁止に関しては以下を参照してください。

⇒アプリケーション禁止 27 ページ

### 4.3.1 アプリケーション配信画面を表示する

アプリケーション配信画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [アプリケーション配信]をクリックします。

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 アプリケーション一覧

No.	URL	起動オプション	
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	✕

(+ボタンで追加: 50件まで)

+

✓ 保存

項番	対象	説明
1	設定名	好きな名前を入力します。
2	アプリケーション一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ URL : アプリケーションをダウンロードする URL を入力します。</li> <li>・ 起動オプション : アプリケーション配信後、インストールするときに付与するオプション文字列を入力します。アプリケーション配信後、インストールするときに任意のコマンドオプションを与えることができます。MSI ファイル以外は、サイレントインストールオプションの指定が必須です。使用できるコマンドオプションは対象のファイルによって異なります。詳細につきましてはアプリケーションファイルのご提供元へお問い合わせください。</li> </ul> <p>※通常のアプリケーション配信の際には入力しません。          ※本機能は上級者向けの機能となっております。十分機能を理解したうえでご利用ください。          ※[追加]  をクリックすると、入力欄が追加されます。          ※[削除]  をクリックすると、入力欄が削除されます。</p>

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—設定セット作成方法」を参照してください。

## 4.3.2 アプリケーション配信の設定セット入力値

アプリケーション配信の設定では以下の入力ルールで設定を行います。

大項目名	小項目名	ルール
【設定名】		設定セットの名称を指定します。1文字～30文字で入力してください。
【アプリケーション一覧】		端末へ配信するアプリケーション情報を設定します。 +ボタン : 設定するアプリケーション情報を追加します。50件まで登録することが可能です。
	URL	アプリケーションの公開先 URL 情報を設定します。 入力必須です。 200文字以内で入力してください。 半角英数字、記号のみで入力してください。 先頭は「http://」か「https://」にしてください。
	起動オプション	インストーラー実行時の引数を指定できます。MSI ファイル以外は、サイレントインストールオプションの指定が必須です。 200文字以内で入力してください。特殊文字は使用できません。

## 4.4 Wi-Fi

機器の Wi-Fi の接続先ネットワークの設定を行う機能です。

### 4.4.1 Wi-Fi 画面を表示する

Wi-Fi 画面を表示します。

1. メニュータブをクリックします。
2. [Wi-Fi]をクリックします。

項番	対象	説明
1	設定名	お好きな名前を入力します。
2	ネットワーク一覧	登録した SSID のうち最初につながったアクセスポイントと接続します。登録した SSID の接続に全て失敗した場合は、以前接続していた SSID に接続されます。 ・ SSID : SSID を入力します。 ・ セキュリティ : なし、WPA/WPA2-PSK のいずれかを選択します。 ・ パスワード : SSID のパスワードを入力します。 ・ Hidden : Hidden SSID(非公開 SSID)を使用している場合はチェックを入れます。 ※[追加]  をクリックすると、入力欄が追加されます。 ※[削除]  をクリックすると、入力欄が削除されます。

※新規作成、編集、削除、複製方法は、「管理サイト ユーザーマニュアル 管理サイトの操作」の「管理サイトの操作—設定セット作成方法」を参照してください。

## 4.4.2 Wi-Fi の設定セット入力値

Wi-Fi の設定では以下の入力ルールで設定を行います。

大項目名	小項目名	ルール
【設定名】		設定セットの名称を指定します。1文字~30文字で入力してください。
【ネットワーク一覧】		端末へ設定する Wi-Fi 情報の設定を行います。 +ボタン：設定する Wi-Fi 情報を追加します。5 件まで登録することが可能です。
	SSID	端末へ配布する Wi-Fi 設定の SSID を登録します。 入力必須です。 32 文字以内で入力してください。 半角英数記号で入力してください。
	セキュリティ	端末へ配布する Wi-Fi 設定のセキュリティ方式を登録します。 以下から選択できます。 ・なし ・WPA/WPA2-PSK
	パスワード	端末へ配布する Wi-Fi 設定のセキュリティパスワードを登録します。 セキュリティの設定によって入力文字数が変わります。 ◆「なし」の場合 空です。 ◆「WPA/WPA2-PSK」の場合 ASCII 文字: 8 文字以上 63 文字以下 16 進数: 64 文字
	Hidden	端末へ配布する Wi-Fi 設定の Hidden SSID の場合、チェックをします。